

ハッピーウーマンサークル（金城学院大学）

活 動 実 績 調 書

(1) 活動名	生活経済リテラシー向上委員会 2024
(2) 活動の目的・成果（※何を目指し、何が成果として得られたかについて記載）	
本活動では、学生主体の金融講座の提供により、瀬戸市民のみなさまに、生活経済リテラシーを向上させることを活動目的とした。また、学生が授業等で普段学んでいることを提供し、学びを実生活で生かせるような身近さを大切にできるように取り組んだ。期待する成果は3点である。第1点目は、瀬戸市民のみなさまの疑問点、興味を学生とともに学んでいくことができるという点である。ニーズ調査を行い、企画することで知りたい情報を学ぶことができる。また、質疑応答の時間を設けることで、身近な疑問にも学生なら聞きやすい場となった。第2点目は、講座を継続的に開催することで、瀬戸市民のみなさまが金融の知識に触れる機会が多くなり、将来的には自分の生活を豊かにすることはもちろん、市全体でも金融知識の向上につながると考える。第3点目は、実用性がある点である。配布する資料の中にシミュレーションやクイズを取り入れ、より楽しく実践的な取り組みを行うことを意識した。また、今年は講座時間の中に長めの質疑応答の時間を設け、学生や知識のある先生と触れ合う時間をつくり、個人的な質問や交流する時間をつくることができた。	
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
1. 生活経済リテラシー ニーズ把握 8-9月 主に瀬戸市在住の社会人（20 - 60 歳）を対象とし、生活経済リテラシーに関する理解度や講座で知りたい分野についてニーズを把握した。ニーズ把握にあたり、パルティセとで行われていた「カレッジ講座」での調査、瀬戸市の職員の方へニーズ調査を行った。合計で118の回答数を得た。カレッジ講座では、部員が直接講座に伺い、講座終了後にお時間をいただき、回答をお願いした。回答形式は、紙媒体とGoogle foamで行った。カレッジ講座では高齢者が多かったため、紙媒体で行い、Google foamでは、20 - 60 代の方にはほぼ均等で回答をいただいた。回答は氏名、メールアドレス等は任意とした。 2. テーマの選定、日程計画 8月中旬 生活経済リテラシー ニーズ調査で得た結果をもとに需要があると見込まれたテーマを導入した。テーマが確定したのち、日程、時間、場所、講座内容を決定した。審査会のアドバイスを元に瀬戸市の要素を取り入れるなどおおまかな内容を決定した。 3. 講座参加者に予約システム構築 9月下旬 Google formにて予約システム構築し、アクセス用のQRコードを広報ツールに添付した。講座ごとに作成した。また、任意でメールアドレスを記入していただいた方には、日程が近くになった際に詳細をお送りできるよう作成した。なお、参加者希望の情報の一覧はスプレッドシートで管理した。 4. 広報ツールの作成 10月 1. 広報せとに掲載していただいた 開催2カ月前の10月のチラシに掲載させていただけるよう、事務局の方に協力をお願いした 2. チラシ作成 A4サイズのチラシを作成し、講座内容、日時、場所などを記載した。大学構内に掲示していただいた。 3. ポケットティッシュ作成 チラシをより手に取っていただけるよう、ポケットティッシュでの広報も行った。小さめのチラシを作成し、ポケットティッシュとともに、瀬戸市役所、瀬戸市立図書館、パルティセとに	

置かせていただいた。

4. インスタグラム

若い世代の方にも知っていただけるようインスタグラムにも告知をした。また、開始の数日前には、参加者募集のためストーリーを投稿した。

5. 生活経済リテラシー啓発冊子の作成 11月下旬

本番講座のテキストとして用いる冊子を作成した。講座に参加しない方へも取っていただけるような内容を目指した。毎年金融に関する情報は更新されているため、また、著作権違反の防止や誤った情報の提供がないよう、金城学院大学生活環境学部生活マネジメント学科の古寺浩教授が監修を行い作成した。また、当日使用するパワーポイントも同時に作成した。

6. 本番講座の実施

参加人数は、合計3名、場所はパルティセと市民交流センターの大会議室を借り、プロジェクターを用いながら講座を進め、オンラインで受講していただけるよう撮影を行った。

7. テキストの配布

製本したテキストを、大学内や、パルティセと市民交流センターに配布した

8. 報告書の作成

全体を通してのまとめとして報告書を作成した。ニーズ調査を把握したアンケート結果や講座で扱った内容や資料等について書面をまとめた。

(4) 活動実施上の工夫(※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載)

私たちは、先輩がつないでくれた学生視点を大切にし、学生主体のファイナンシャルプランニング講座を行い、瀬戸市民の生活経済リテラシーを向上させることを目標とし、講座を企画、運営を行った。講座を実施する学生は、ファイナンシャルプランニングについて学習しており、実生活で活かせるような知識を身に付けられるよう、参加者に寄り添う講座を開催し、学生自身より深く知識と理解を深める機会となった。昨年は、資料作成に時間をかけてしまい、広報の時間を設けることができず、急遽日程の変更をせざるを得ない状況になってしまった。そのため、今年は、開始の段階でスケジュールを予め計画し、先生と調整をしながら進めていった。また、広報活動において、チラシだけの配布では手に取っていただけないと考え、ポケットティッシュを使い、そのサイズに作成したチラシを作成し、瀬戸市役所や瀬戸市立図書館に配布させていただいた。結果、昨年まではチラシが余っていたが、手に取っていただく方が増え、講座を知るきっかけとなった。

(5) 活動実施上の反省点(※具体的な反省点等について記載)

- ・参加人数が少ない点である。ポケットティッシュを用いたことや、広報活動を素早く行い、長い時間をかけたが、当日の参加者が見込めなかった。
- ・資料作成にあたって、学生自身が学年によって知識の差があること、部員同士で交流が少なかったことにより、当初の計画通りに進めることができず、資料作成が本番直前になってしまった。それにより、本番では製本でテキストを配布することができなかった。